

# 学校だより

09 インディアナ日本語学校  
No15(8月) 全校生 311人



# お知らせ

1 「運動会クラスペアレンツのお願い」について  
○幼稚部・小1年・2年の保護者の皆さまに、運動会当日の園児・児童のトイレ引率等のお世話をして頂ける方を募集していますので、ご協力をお願い致します。



## 悩める貝にのみ 真珠は宿る

アメリカでの子育てでは、ご家庭でもいろいろ悩まれることもおありだと思います。皆様のお子様をお預かりしている私たちも、最善は尽していますが、これでいいのかという思いを持つことがあります。

事実、本校の教員は、誠実に一生懸命に子どもたちに関わっていますが、悩みもあります。

子どもが教育されたものとして、私たちの前にあり私たちが教育をしたものとして立っている以上、この子はこうだと理解するより、この子は何故こうなのかと理解していくことの方を大切にしたい学校でありたいと思っています。

### さようなら先生

### こんにちは先生

高等部 小論文・現社  
ジョーンズ・ピネル 先生

高等部 小論文・現社  
影戸 悠一 先生



## 私の将来の目標と補習校

私が、インディアナポリスへ引っ越して来て1ヶ月が経ちました。1週間前から現地校の授業が始まり、慣れない環境ながらも一生懸命頑張っています。

元々私は、英語がとても好きでした。日本で通っていた高校でも、英語コース科に入っていましたし、英会話教室に通っていました。だから、英語は、私にとって身近な存在でした。また、将来は、英語を使う仕事に就きたいという思いもありました。けれども、両親から引っ越しの話が聞かされときは、あまりにも突然で、初めは戸惑いがありました。しかし、アメリカでの生活を経験することが、これからの人生の何か大切なものをもたらしてくれるのではないかなと思うようになり、とても前向きな気持ちで引っ越すことが出来ました。実際、現地校での生活は日本とは全く違うし、街へ出てみてもたくさん不思議なことがあり、日本では決して学ぶことが出来ないことが学べるため、とても良い経験になっています。

私は将来、英語の先生になりたいと思っています。なぜなら、中学時代にとても素晴らしい先生との出会いがあったからです。私は、高校受験のために、学習塾に通っていました。塾の授業はとてもハードで、入試間近の2週間は毎日授業があり、私たちはとてもつらい日々を送っていました。もちろん先生方も生徒を合格させるために、寝る間を惜しんでプリントなどを作っておられたと思います。しかし、先生方は、授業を分かりやすく教えてくださるだけでなく、疲れた私たちを、いろんなことをして笑わせてくださいました。また、私が浮かぬ表情をしていたときも、「どうした？」と肩をたたいて、いろいろ話を聞いてくださいました。今考える先生方にしていただいた全てのことが、高校入学に繋がっていたんだと思いました。そんな素晴らしい先生方との出会いがあって、先生方のように、人を幸せにできる仕事がしたいと思うようになりました。

しかし、教師になるためには、大学に行かなくてはなりません。帰国子女枠で受験するにしても小論文があるため、なかなか難しいと思います。そのためにも、私は、インディアナ日本語学校で学習する必要があると思います。現地校と補習校の2つの学校に通うのは、とても大変なことだとは思いますが、夢を叶えるためにも努力しようと思います。

今私が、この地で生活していることは、日本で普通に生活している人たちには出来ない特別なことだと思います。ここでの日々が、将来の自分の糧となるように、毎日を生きていこうと思います。

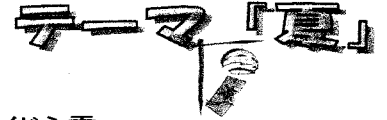
## 新しい友達



小2-1 相川 歩未 小3-1 相川 暖



## 俳句



- 走る馬 一分たてば くじら雲 (高校2年 武田 美紗)
- 夏が来た 緑の木々が 目にしみる (高校2年 木村 尚人)
- 夏祭り たゆたう金魚の 極彩色 (高校2年 西村早也香)
- 水遊び 子どもが遊ぶ 楽しげに (高校2年 ファンジュン)
- 縁側の 涼しい風で 昼寝どき (高校2年 北井 真央)



高校1年 よしだ もえ  
吉田 萌絵